

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県裾野市

○学校名

裾野市立富岡中学校

○学校のURL

<http://www2.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2220007>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1 学年 4 学級、 2 学年 4 学級、 3 学年 4 学級 【合計】 1 2 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 3 9 4 人（平成 2 5 年 1 0 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 129 人、 2 年生 133 人、 3 年生 132 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

「自力で力強く生き抜く生徒」の育成

【人権教育に関する目標】

- ・個人の尊厳を重んじ、自他の基本的人権を尊重し、信頼と敬愛の精神を育成する。
- ・ピア・サポートを基盤とした仲間づくり活動を行い、お互いの個性を認め合い、差別を許さない態度を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

<学校経営>

○人権教育年間指導計画の作成

○学級づくり：静岡県版「人間関係づくりプログラム」の実施（年 3 回）

○職員研修：ピア・サポートを含めた人権教育に関する研修の年間計画への組み込み

○ピア・サポート授業の道徳年間計画への組込〔 2 - (2) (3) (5) 〕

<ピア・サポート活動>

○定例活動：相談受付隊（毎週金曜日）・見守り隊（毎週金曜日）・相談 BOX（常時）・広報誌の作成（月 1 回）

○定例外活動：ピア・サポーター養成研修・部長のためのリーダー養成講座など

3. 特色ある実践事例の内容

◆ ピア・サポート活動の取組

(目的)

「富中生が元気になるように、いじめが減っていくように」

ピア・サポートとは仲間（ピア）を、援助（サポート）する活動である。自分と同じような立場の人と、悩みを共感したりアドバイスをしたりと、お互いを支え合う活動で、子供たち同士で支援することができる力をトレーニングやサポート活動を通じて育成し、思いやりあふれる学校風土を醸成していく。

(取組を始めたきっかけ)

「不登校やいじめ問題等に発展する前に、子供たちのストレスを解消する方法はないか」「生徒同士がより良い人間関係を結べないか」と考えたとき、大人サイドからのアプローチではなく、子供たち自身が人間関係づくりを育む活動を発展させたいと考えた。そのときの学校教育目標が「認め 励まし 共に学ぶ」であり「学びの共同体」を進めていたので、そのねらいにも合致するものと考え、平成21年度、保健委員会活動を主体とした取組を開始した。

(取組の内容)

1) 定例活動

①相談・受付隊（毎週金曜日活動）

気軽なおしゃべりを含めた相談活動で、ストレス対処に使える呼吸法の指導、エコグラムを取り入れた面接などを、昼休みにピア・サポートルームで行う。

相談をしたい生徒、おしゃべりをしたい生徒は気軽に訪れ、ピア・サポート活動員（以降、ピア・サポーター）と面接する。

②見守り隊（毎週金曜日活動）

生徒による生徒のための巡回活動で、ピア・サポーターが腕章をつけ、教室や廊下を巡回して仲間の様子を見たり、声をかけたりする。

③相談BOX（常時）

各学年廊下と生徒会室前、保健室前に、相談事を入れる箱を設置している。

ピア・サポーターが回収し、相談に対応する。

④広報誌の作成（月1回）

広報誌「ピア・サポート絆」を毎月1回発行している。



—上級生・下級生一緒になっての見守り活動—

2) 定例外活動

①ピア・サポーターの養成研修

ピア・サポーターの養成と相談活動を充実させるための研修を行っている。

毎月1回、金曜日の放課後と夏休みに二日間の研修を行う。本校に配属されているスクールカウンセラーを講師として、エゴグラム分析や傾聴訓練、相談活動などを行う。

夏休みの研修では、二日間に分けて各2時間、「聴く練習」と「問題を解決する相談」を集中的に行った。



相手の気持ちになって考えるって、とっても大切なんだ！

—みんなで仲良く研修—

②リーダー養成講座

部長等リーダーの立場にある生徒やピア・サポートに興味のある生徒のコミュニケーションスキルを高めるための研修を今年度、取り入れた。

スクールカウンセラーを講師に、4月30日と11月8日に実施した。

3) 学級づくり

ピア・サポーターだけでは、お互いの心を尊重し、支援し合うスキルは育たないので、教師がピア・サポートについて学び、道徳や学級活動などを通じて、人間関係づくりの授業を行っている。

①人権教育年間指導計画の作成

年間を通して、道徳や学級活動などで、人権教育に関わる計画を作成し、人権教育を、どの時期にどのような形で行っていくのかを位置づけている。



—みんなで楽しく学ぶ職員研修—

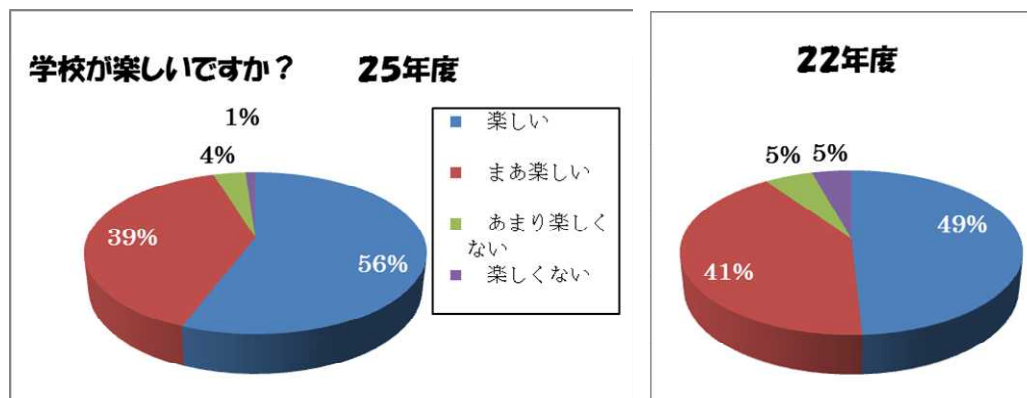
②静岡県版「人間関係づくりプログラム」の活用

静岡県教育委員会が発行している「人間関係づくりプログラム」を活用し、学級活動などで生徒間の人間関係づくりに役立てるため、全教員で研修している。

「人間関係づくりプログラム」に係る調査を、4月、6月、11月に行い、学級づくりに生かしている。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)



生徒会が独自に行った生徒へのアンケート調査で、「学校は楽しいですか」の質問に対し、95%の生徒が「楽しい、まあ楽しい」と答えている（上グラフ）。平成22年度に行った同じアンケートでは90%であったことと比較しても、取り組んできた成果が現れている。

不登校生徒数も、ピア・サポートに取り組み始めてから2年後にピークを迎えたが、翌年以降はピーク時の半分になっている。

養成研修では、「人に悩みを聴いてもらおうと心がスッキリ軽くなりました。今日の研修で学んだことを生かして、友達とこれからも接していきたいです。」等、スキルアップを実感できる感想が相次いだ。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価と今後の課題)

生徒アンケートの結果や生徒の感想から、そして不登校生徒数においても、その効果は現れていると考える。ピア・サポーターの数が増えてきていることから、思いやりあふれる学校風土が醸成に向かっているとも考えることができる。

しかしながら、学校を楽しくないと感じている生徒が5%存在し、不登校生徒数も0ではないので、今後の取組を更に発展させる必要がある。また、相談・受付隊、見守り隊、相談BOXの取組は、活動当初に比べて衰退してきていることが事実としてあげられる。これらのことは、ピア・サポーターの存在が学校生活において大きな影響を及ぼしてきているから必要性が薄れてきたものととらえることもできるが、その点においては検証が必要である。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

裾野市立富岡中学校

いじめの防止等は、全ての学校・教職員が自らの問題として切実に受け止め、徹底して取り組むべき重要な課題である。いじめをなくすためには、深い児童・生徒理解に立ち、生徒指導の充実を図り、児童生徒が楽しく学びつつ、いきいきとした学校生活を送れるようにしていくことが重要である。

本実践事例は、「富中生が元気になるように、いじめが減っていくように」することを目的に、ピア・サポート活動に着目し取り組んだものである。このピア・サポートの実践を踏まえ、互いの心を尊重し、支援し合うスキルを育てるためには、人間関係づくりの授業が必要であるとの認識の下、人権教育の年間指導計画を作成し、それに基づき組織的・計画的に実践を行おうとする取組の方向性が、人権教育を推進する際に参考となる事例である。